

<対策のポイント>

農業の競争力強化のための農地の大区画化や汎用化・畑地化、新たな農業水利システムの構築、国土強靱化のための農業水利施設の長寿命化・耐震化対策、ため池の管理体制の強化等を推進します。

<政策目標>

- 担い手が利用する面積が全農地面積の8割となるよう農地集積を推進 [平成35年度まで]
- 基盤整備完了区域（水田）における作付面積（主食用米を除く）に占める高収益作物の割合（約2割 [平成27年度] → 約3割以上 [平成32年度まで]）
- 施設機能が安定している基幹的農業水利施設の割合 約5割以上 [平成32年度まで]
- ハザードマップ等ソフト対策を実施した防災重点ため池の割合（約5割 [平成27年度] → 10割 [平成32年度まで]）

<事業の内容>

1. 担い手が活躍する強い農業基盤づくり

(農業競争力強化対策)

150,320 (111,027) 百万円

担い手への農地集積や農業の高付加価値化を図るため、農地中間管理機構との連携等により、農地の大区画化や汎用化・畑地化、畑地かんがい施設の整備等を実施します。また、パイプライン化やICT等の導入により、新たな農業水利システムを構築し、担い手の多様な水利用や水管理の省力化を推進します。

2. 老朽化した農業水利施設の長寿命化

(国土強靱化対策)

133,889 (126,495) 百万円

老朽化した農業水利施設について、点検・診断に基づき、補修・更新等を適時・的確に実施します。

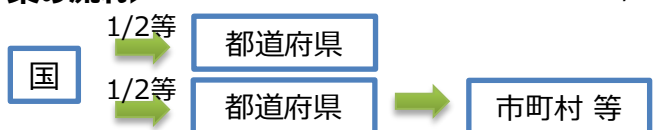
3. 安全・安心のための農村地域の防災・減災

(国土強靱化対策)

107,477 (83,531) 百万円

基幹的な農業水利施設やため池等の耐震対策、集中豪雨による農村地域の洪水被害防止対策等を実施します。

<事業の流れ> ※事業実施主体が国の場合は、国費率2/3等



<事業イメージ>

農業競争力強化対策

1. 担い手が活躍する強い農業基盤づくり

- 農地整備を通じた農地集積・集約化の例

現況	計画
農家数 363戸 戸当たり規模 0.6ha/戸	凡例 A緑農地 50ha B緑農地 83ha C緑農地 43ha 自家消費農家 51ha
- 大区画化の例

事業実施前	事業実施後
- 汎用化の例

水稲	タマネギ
踏踏排水の整備により排水が良好となり、水田でタマネギを作付け	
- 新たな農業水利システム (イメージ)
 - 自動ゲート化
 - 取水施設
 - 分水施設
 - 調整施設
 - 中央管理所
 - 自動給水栓
 - 水位・水温の確認 用排水の遠隔操作
 - 水管理のICT化
 - 水路のハイライン化
 - 面的集積
 - 麦 大豆

土地改良区による管理 ← 大規模・少数の担い手農家による管理

国土強靱化対策

2. 老朽化した農業水利施設の長寿命化

- 農業水利施設の補修・更新等
 - 水路の機能診断
 - 補修
- 点検・診断結果のデータベース化・可視化
 - 区画単位
 - 用水路 S-2
 - △用水路 S-1(改良) S-2(補強) S-3(補修) S-4(架設橋) S-5(健全)
- 管理体制の整備
 - 施設管理の現地指導

3. 安全・安心のための農村地域の防災・減災

- 施設の耐震化
 - 耐震化後の頭首工堰柱
- ため池の整備
 - ハザードマップの事例
 - 改修後の堤体
- 洪水被害防止対策
 - ポンプ羽根車の設置